

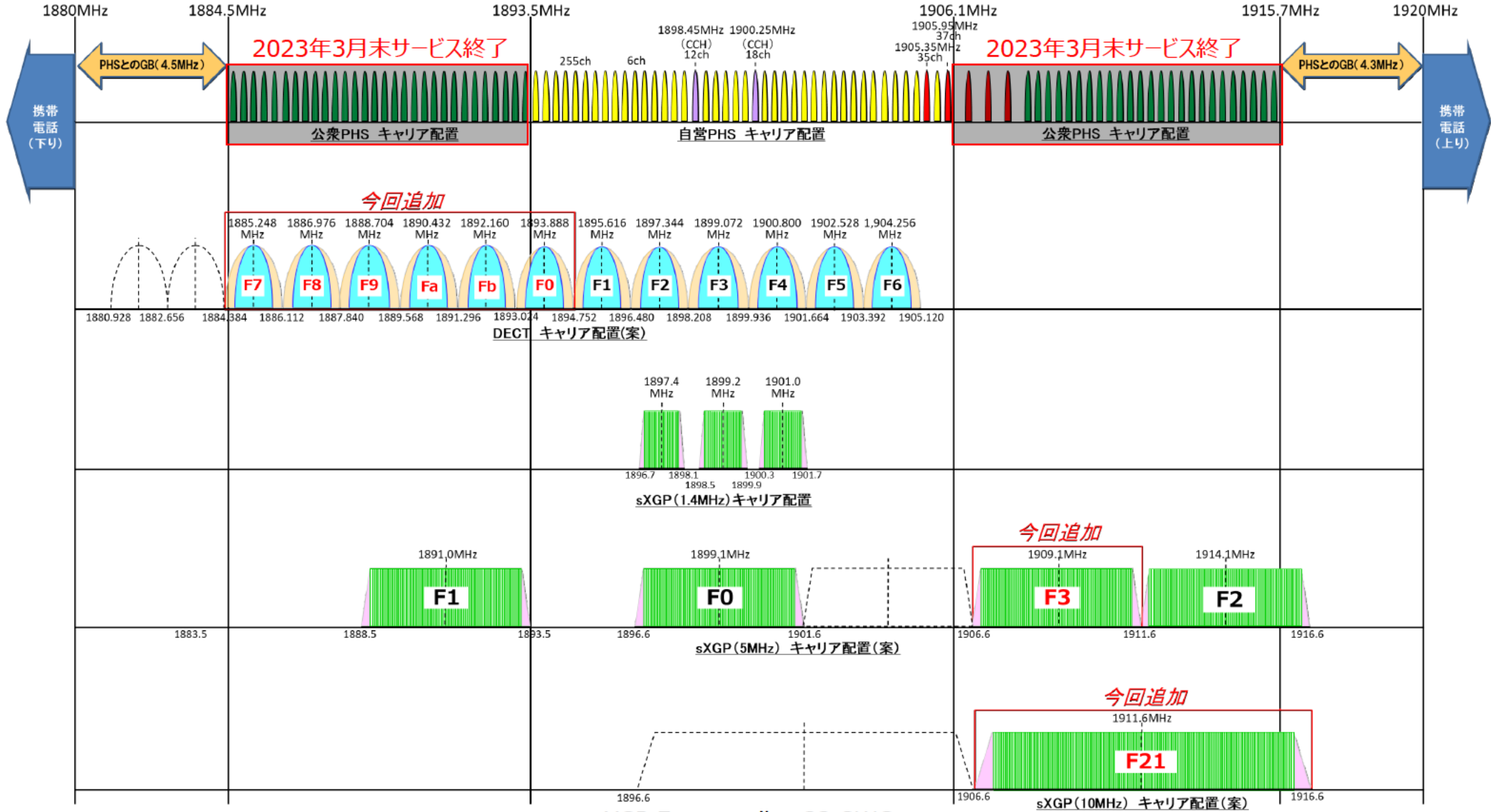
TD-LTE方式と同一及び隣接周波数の他の無線システム  
との共用検討結果  
(sXGP方式技術的条件の取りまとめ)

2023年1月27日

XGP Forum adhoc22 SWG

# 1.9GHz帯 周波数配置改正全体

同一/隣接周波数を用いる他システムへの干渉影響が少なく、また既存チャネルも活用して広帯域チャネルを導入可能とする周波数拡張内容は以下の通り。



## sXGPと自営PHS、DECTとの共用検討

現在の自営帯域（1893.5~1906.1MHz）には、自営PHSの保護及びDECTのF1~F6キャリアの保護のために、今回改正ではsXGPのキャリアを追加しない事とする。

また現在と同様に、DECTへの保護規定としてDECTのF5,F6キャリアに対して-12dBm/1.152MHz (-12.6dBm/MHz) を設けることにより、前回の情通審検討結果から共用可能。

## sXGP間の共用検討

現在と同様に、sXGP間は通話ch保護のキャリアセンス規定にて共用する。

## sXGP 10MHzと2GHz帯携帯電話（上り）との共用検討

現在と同様に、隣接2GHz帯携帯電話(上り)帯域への保護規定として親機 -30dBm/10MHz(-40dBm/MHz)、子機-15dBm/10MHz (-25dBm/MHz)を設けることにより、前回の情通審検討結果から共用可能。

# sXGP 5MHzの技術的条件改正内容

## 【キャリア周波数】

1899.1MHz (F0) 、 1891.0MHz (F1) 、 1914.1MHz (F2) 、 **1909.1MHz (F3) ※1ch追加**

## 【空中線電力】 ※変更なし

親機 200mW、子機100mW

## 【空中線利得】 ※変更なし

4dBi以下

## 【不要発射の強度】

＜帯域外領域における不要発射の強度＞  
親機

f cからの離調	不要発射の強度
±2.5～3.5MHz	-15dBm/30kHz
±3.5～6.1MHz	-10dBm/MHz
±6.1～7.3MHz	-29dBm/MHz
±7.3～12.5MHz	-36dBm/MHz
1895.040～ 1896.192MHz 1901.952～ 1903.104MHz 1903.680～ 1904.832MHz	- 12dBm/1.152MHz
<del>±906.9～±907.9MHz</del>	<del>-36dBm/MHz</del>
1920～1925MHz	-33dBm/5MHz (-40dBm/MHz)

※規定削除

＜スプリアス領域における不要発射の強度＞

f cからの離調	不要発射の強度
±2.5～3.5MHz	-15dBm/30kHz
±3.5～6.1MHz	-10dBm/MHz
±6.1～7.3MHz	-13dBm/MHz
±7.3～12.5MHz	-25dBm/MHz
1895.040～1896.192MHz 1901.952～1903.104MHz 1903.680～1904.832MHz	-12dBm/1.152MHz
<del>±906.9～±907.9MHz</del>	<del>-25dBm/MHz</del>
1875～1880MHz	-36dBm/MHz
1920～1925MHz	-18dBm/5MHz (-25dBm/MHz)

※規定削除

-36dBm/MHz ※変更なし

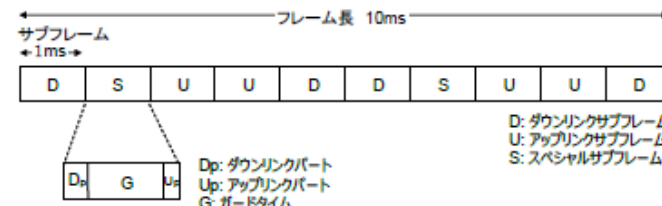
## 【キャリアセンス（通話ch保護）】 ※変更なし

親機及び子機それぞれがキャリアセンスする場合 : -56dBm以下

親機が子機のキャリアセンスを代行する場合 : -64dBm以下

## 【フレーム構成】 ※変更なし

UL-DL Config.1



# sXGP 10MHzの技術的条件内容

## 【キャリア周波数】

1911.6MHz (F21)

## 【空中線電力】 ※5MHzと同じ

親機 200mW、子機100mW

## 【空中線利得】 ※5MHzと同じ

4dBi以下

## 【不要発射の強度】 ※5MHz規定に準ずる

＜帯域外領域における不要発射の強度＞

親機

f cからの離調	不要発射の強度
±5～6MHz	-18dBm/30kHz
±6～8.6MHz	-10dBm/MHz
±8.6～9.8MHz	-29dBm/MHz
±9.8～25MHz	-36dBm/MHz
1895.040～ 1896.192MHz 1901.952～ 1903.104MHz 1903.680～ 1904.832MHz	-12dBm/1.152MHz
1920～1925MHz	-30dBm/10MHz (-40dBm/MHz)

子機

f cからの離調	不要発射の強度
±5～6MHz	-18dBm/30kHz
±6～8.6MHz	-10dBm/MHz
±8.6～9.8MHz	-13dBm/MHz
±9.8～25MHz	-25dBm/MHz
1895.040～ 1896.192MHz 1901.952～ 1903.104MHz 1903.680～ 1904.832MHz	- 12dBm/1.152MHz
1920～1925MHz	-15dBm/10MHz (-25dBm/MHz)

＜スプリアス領域における不要発射の強度＞

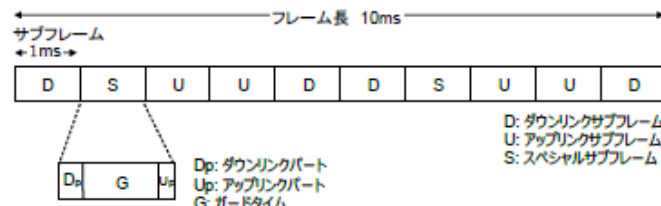
-36dBm/MHz ※5MHzと同じ

## 【キャリアセンス（通話ch保護）】 ※5MHzと同じ

親機及び子機それぞれがキャリアセンスする場合 : -56dBm以下  
親機が子機のキャリアセンスを代行する場合 : -64dBm以下

## 【フレーム構成】 ※5MHzと同じ

UL-DL Config.1



End of File